

パワーアップ事業第二弾

「風鈴と灯りのタベ」(仮称)を計画中

前号でお知らせしておりましたパワーアップ事業の中間反省会を九月七日に開催しました。参加者はあまり多くはありませんでしたが、一夜夢街道についての総括と今後の事業展開について話し合いました。

一夜夢街道については、古市から波賀野新田までの町筋が初めて一本に繋がった祭りが展開されたこと、例年になく多くの人達が参加して下さったこと、その陰には皆さんが親戚や知人にお誘いの声掛けをして下さったこと、街角ギャラリーの展示などで、近隣の方達が自主的に手伝って下さって、つながりが深まった様な気がして嬉しかったと言う感想等が出されました。これからの地蔵祭りのあり方についても検討に値するいくつかの提案も行われましたが、それについては今後の課題として、総常会等の場で、より多くの方々のご意見もお聞きしながら決めていけばよいのではないかと感じました。

パワーアップ事業の第二段としては、先に作陶した古市焼きの焼き上がりを持って、その発表会を兼ねて、十月十九日(日)の午後六時～八時頃までの時間帯で「風鈴と灯りのタベ」(仮称)を開催しようと言ったことが決まりました。この事業では、風鈴や灯り、出来上がった古市焼きの展示に加え、紅葉し始めた木々のライトアップや、持ち寄った「お宝?」(高価なものということではありません)の展示などを行う方向で進めることになりました。この催しには、波賀野新田の皆様にも呼びかけて一体的な取り組みとして進める方向で話し合っているところですが、

場所的には、各戸で展示するとか、一箇所に集めるとか、色々な意見が出ましたが、最終的には各町単位で適当な場所を選んで展示する方向で今後検討を進めることになりました。いずれ、各町の総代さんや実行委員会を中心に、それぞれの町で工夫して展示等をお願いする事になると思います。皆様の協力をお願いします。(吉)



波賀野新田で



中間反省会風景



小林俊哉さん宅の灯り

ユウガオの採種と

次年度の育苗について

古市や波賀野新田を通ると、あちこちのお宅の玄関先や庭で、今もユウガオが白い花を付け、香りを漂わせているのに出会う事が出来ます。元気の良い株はまだしばらくは花をつけることと思います。

ところで、先日の中間反省会の際、ユウガオの花後の処理についてお尋ねがありましたからその要点を書いておきます。

来年の地蔵盆には、今年より多くのユウガオを育て、街並みをユウガオの香りで満たせれば良いなと思っております。来年もどうぞよろしくお願いいたします。

今年の採種について

早く咲いた花の後には実ができていることと思います。しかし、今のところは青かったり、赤紫だったりしています。これではまだ未熟で、無理に種にしても来年の発芽は望めません。もうしばらくそのままにして置いて下さい。

しばらくして、実の表面が褐色になり、乾燥した状態になれば実を取って皮を割って下さい。中には普通三個の種が入っています。実は、乾燥したらその都度採取してもよろしいし、秋の終わりにほぼ全部が乾燥した際にまとめて採種されても構いません。

種子は、表面が白いものは発芽の可能性が高いものですが、表皮が褐色のものはたぶん発芽しないものと思われれます。

採種した種子は、封筒などに採種年次と植物名を書いて乾燥した場所に来年の初夏まで保管しておいて下さい。

フウセンカズラについて

同時に栽培して頂いていますフウセンカズラは、実が下の写真の様に茶色くなったらもぎ取って袋を破り通常は中に三個ある種子を採種します。しばらく追加乾燥させた後袋に入れて涼しいところで保管します。

来年は、これも五月〜六月頃に播種します。この種子は大変発芽しやすく、普通に蒔いて水を与えておけば楽に発芽して生長します。



来年の育苗について

来年の五月〜六月に（早く咲かせたい場合は早い時期に、地蔵盆に間に合わせるには六月頃に）発芽をさせます。

しかし、ユウガオの種子は皮が大変硬く、そのまま蒔いてもなかなか発芽しません。一ヶ月過ぎてもそのままというようなくともあるほどです。そこで、硬い種皮にサンドペーパーややすりで軽く傷を付けて一昼夜か二昼夜くらい水に浸しておき、根が少し出たところで土に埋めます。

なお、胚の部分（いわゆるヘソと言われる部分で、種子が実の中で養分を受け取っていたところ）は絶対に傷をつけないようにして下さい。

その後は、双葉が出、しばらくして本葉が顔をのぞかしたところに定植をします。その際、しっかりと元肥を与えておくと繁茂してたくさんの花をつける様です。



前川田鶴子さん宅のユウガオ